

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4075300261		
法人名	有限会社 憲信社		
事業所名	グループホーム みずき		
所在地	福岡県鞍手郡小竹町大字新多1418 (電話) 09496-2-8100		
自己評価作成日	令和元年11月18日	評価結果確定日	令和2年2月6日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

地域の行事に参加したり、近隣の小学校との交流や地域のボランティアの方々の受け入れをしており、地域の方と触れ合える機会を大切にしています。また、看取りの介護にも力を入れており、最後まで慣れ親しんだ環境で自分らしい生活、ご希望に添える生活が出来るよう、ご本人様、ご家族様、主治医、訪問看護ステーション、介護スタッフで協力して取り組んでおります。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和元年12月18日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

利用者、家族との信頼関係が強く、利用者の逝去後も家族との交流が継続されている。どのような利用者でも拒まず受け入れ、スタッフが丸となって対応方法を編み出して受け入れを行っている。法人トップの会長以下の職員との風通しが良い事業所である。スタッフ全員が入居者本位の介護支援を実践するという目標で結束しており、チームワークが良好な点が印象的である。総合診療を核とした医療連携がスムーズに行われており看取りに関しては注目すべきスキルを有している。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様と地域の方々、職員が支えあい町づくりに貢献する。という理念をかかげており、日々のお世話の中で理念や職員の誓いを念頭に置きサービス提供を行うように努めています。	理念に“地域に発信し地域で支える町づくり”を標榜し、地域共生社会シンポジウムへの参加を通して、事業所と地域の関係を深める取り組みを行っている。理念の現場実践を徹底させるため、管理者・ホーム長が職員に適時理念の具現化について指示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し回覧板を毎月回していただいています。また、地域のボランティアの方に来苑していただき、本の読み聞かせなど毎月行って頂いています。町の文化祭では、お年寄り職員共同で作った作品も展示し地域との交流につなげています。	自治会への加入、地域活動にも積極的に参加している。地域ボランティアが定期的に訪問し、読み聞かせ、体操等を行っている。小学校とは歌、踊り、折り紙を通して交流をしている。事業所主催の春祭り、秋の町主催の文化祭にも入居者、職員協働の作品を出品している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や近隣の小学校との交流の際に、認知症の方の支援方法や関わり方等伝えていきます。また、施設の力を地域で活かせるよう、地域の方が開催するシンポジウム等に参加しています。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、地域の民生委員や、近隣住民代表の方、役場の方、入居者様、ご家族様に参加していただき日頃の様子や困難事例など相談しています。そこで、委員の皆様より率直な意見や提案を頂きサービスの向上に生かしています。	運営推進会議は2ヶ月に1度開催され、利用者、利用者家族、行政職員、民生委員、地域代表の参加がみられる。事業所主催の春祭りの際に発生する、路上駐車の問題が提起され、地域住民の協力を得て、解決した事例がある。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃から様々な件に関し相談し、運営推進会議にも役場福祉課の方に参加していただき、ご協力いただいております。また、施設のパンフレットなども定期的に置かせていただいております。	事業所には成年後見制度や生活保護を受けている利用者が入居しており、毎月最低1度は行政窓口へ足を運び、担当者に相談してアドバイスを受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会の設置及び身体拘束訂正化の為に指針の整備を行い、三ヶ月に一回会議を開催し、マニュアルの見直しや、困難事例の対策、研修の企画実施、日常ケアの見直し等行っています。	日中、玄関・居室は施錠されていない。利用者の外出傾向を全職員が把握しており、付き添いを行っている。近隣住民にも民生委員と共に声かけを通して理解を促し、連絡してもらえる関係を構築している。外部内部、伝達研修も定期的実施されている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待について外部の勉強会にも参加し、参加した職員が施設へ持ち帰り施設内勉強会を開いている。また、入居者様のご様子や入浴時等に身体状況等に異変がないか日常的に観察を行っています。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時に、ご家族様と入居者様に権利擁護に関する制度の活用についても説明し、パンフレットも準備しています。	制度に関する説明は契約前後に行われている。外部研修、内部研修、伝達研修も行われている。職員が制度の理解を深める為に、分からない点は、行政に確認しながら情報収集を行っている。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、入居後予想される事故やトラブル等について事前に説明しています。また、契約前にもご本人様やご家族様に施設見学に来ていただき、不安や疑問があればその場で説明をさせて頂いています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様訪問時に苦情や意見が気兼ねなく言える雰囲気づくりを心掛けています。また、定期的にご家族アンケートも送付し、意見箱「お宝ポスト」を玄関に設置しています。	管理者、ホーム長、職員の定着年数が長く、中には10年以上平均6年程の職員が勤務しており、利用者、家族との絆は深く日常的な意見や思いを伝えやすい。食事の内容を利用者の意見や要望に沿って変えている事例が多くみられる。また、家族の要望で通院を代行する例もみられる。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員が発言できる雰囲気を作っており、会議でも積極的に意見や提案をしてもらい運営に反映しています。	自己評価は全職員の意見を聞いて集約している。管理者、ホーム長も、現場で職員と、介護実践を通して意見の拾い上げを行っている。春祭りの出し物や踊りの振り付け、台所用品等の物品購入などが職員意見の反映の事例としてあげられる。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来る限り職員の要望は聞くようにしており、状況に応じて話し合いの場も設けています。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集は男女年齢問わず募集をしており、10代から70代までの幅広い年齢層の方が明るく、元気に勤務しています。向上心を持って働ける様、相談・助言を行い、資格取得についても積極的に支援しています。</p>	<p>職員の構成は男性2名、女性10名で、年齢構成は19歳から73歳である。定年はあるが、1年更新で、希望すれば継続雇用が可能である。職員のスキルアップの推進として、研修等も積極的に参加できるように支援している。</p>	
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>勉強会による人権教育や啓発活動に取り組んでいます。</p>	<p>内部研修は全員参加で実施している。外部研修については、1名が参加し、伝達研修が全職員に行われている。今後、地域の人権擁護委員、行政と連携して、人権週間をいかけた取り組みを予定している。</p>	
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>入社半年以内に新人研修を行っている。また、施設内で2か月ごとに勉強会を行い介護技術等指導を行っている。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣の施設等に施設情報等提供し意見交換等行っています。また、他事業所が開催、若しくは集まる交流の場などにも参加をしています。</p>		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前から施設見学をしていただいたり、こちらから自宅等へ訪問し、ご本人様・ご家族様面談にて不安や要望などお聞きし、徐々に施設に馴染んでいただけるような関係づくりに努めています。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>上記取り組みと同様。また、話しやすい環境を作り信頼関係が築ける様努力しています。</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前より面談や施設見学及び情報提供書等にて、ご本人様・ご家族様の精神面・身体面・環境状況を把握し、今どんな支援が必要かを具体的に話し合い見極めています。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様ご自身で出来ることは、なるべくご自分でしていただき、得意なことは入居者様がスタッフに教える等ともに支えあう関係作りに努めています。また、その人らしさや健康な能力が活用できるよう支援しています。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	苑の行事に御家族様を招待し、楽しみや思い出を分かち合い、ともに支える関係作りをしています。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご友人の面会時には、お茶をお出しする以外は入室を控え、ゆっくりと過ごしていただける様心配りをしています。	管理者、ホーム長、全職員は利用者の生活歴を通して、馴染みの人と場所を把握している。馴染みの人の訪問を促進する声かけをきめ細かに行っている。通院時等に利用者の馴染みの場所を、出来るだけ通る取り組みが行われている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の時間や、レクリエーションにて一緒に過ごす時間の調整役として、また、入居者様同士の会話の橋渡しなど関係がうまくいくように支援しています。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご入居者様やご家族様とのかかわりを大切にして、手紙などのやり取りなども行っています。		



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様とのコミュニケーションを密にとり、希望や意見を把握するように努めている。意思表示が困難な場合は、日々のご様子や、アセスメント、ご家族様からの情報から把握できるように努めています。	職員の入れ替わりが少ない為、利用者との絆が強く、利用者の目配り、表情、所作から思いや希望を把握できる疑似家族の関係性を有している。排泄時の訴えは、概ね理解できている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様及びご家族様や今まで担当されていたケアマネージャーより入居前より聞き取り調査を行い把握するように努めています。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムや過ごし方の違いを理解し、個人の出来る事やしたい事を探り取り入れ、出来ることを増やしていける様サポートしています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様からは日々の関わりの中で思いや意見を積極的にお聞きしている。定期的にカンファレンスを行い職員で意見交換を行っている。	6か月に1回、利用者・家族・職員・医師の意見を聞いて見直しをしている。利用者や家族の意向に添ったプラン作りをしている。変化があった場合は、随時プランを見直ししている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	訴えや行動、スタッフが掛けた言葉、行為、入居者様の反応、感じたことを細かく記載し、介護計画に生かしています。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様からの宿泊希望時には寝具や食事を提供している。また、外出時の同行、入院時の面会等を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や小学校との交流会、地域の場ランティアを活用し、入居者様の健康な力が発揮でき楽しんで生活ができる様サポートしています。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様ご希望の場合はかかりつけ医での受診を行っています。また、希望の無い場合は、同意の上協力医療機関から往診に来て頂き24時間の連絡体制も整えています。	利用者や家族が希望する病院をかかりつけ医として、通院もしくは往診をしていただいている。通院は家族が行かれる場合は、状態等を伝えており、通院に家族が行くことができない時は、職員が対応し、受診結果は報告している。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	アップルハート訪問看護ステーションによる24時間連絡対応の体制を整えています。また、週1回の訪問にて健康管理を行って頂いています。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は面会に行くようにしており、馴染みの顔を見せ入居者様に不安を与えないように努めています。また、かかりつけ医、入院先関係者、施設側職員が常に情報交換を行っています。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を定め、契約時に終末期における医療処置の対応等ご本人様及びご家族様に確認しています。また入居後も、ご家族、職員、かかりつけ医、その他関係者との情報共有を密に行い、今後の変化に備え、すぐに対応できるようにしています。	重度化・終末期の支援について、契約時と医師から回復の見込みがないと診断された時に、再度家族へ説明をし、意向を確認している。急変した場合は、24時間対応の訪問看護と提携しており、対応していただいている。医師・家族・職員と密に話し、安心して最期を迎えられるように支援している。昨年は2名看取りをしている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急についての研修、実技の指導を受けています。また、緊急時即座に対応できるよう、緊急対応マニュアル、連絡網を作成しています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時の避難経路や場所の見取り図を掲示し、連絡網も作成しています。また、定期的に避難訓練も実施しています。	年に2回避難訓練を実施した。今年は消防署立会いではなく、消防設備業者の立会いの下で行った。その際、緊急通報装置の扱いなどの指導も受けた。運営推進委員会で地域の方に避難訓練の参加を呼び掛けたが、参加には至らなかった。備蓄品については、3日分の食材があった。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話し方や入浴・排泄等対応についての勉強会を行っており、日々の支援に生かしています。また、記録などの個人情報に関する秘密保持も徹底しています。	オムツ交換や着替えは、人目につかないように十分配慮している。誘導する際にも、無理強いくることのないように気を配っている。記録等の個人情報については事務所で管理している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様との関係作りに努め、いつでも思いや希望を表現できる環境を整えています。また、スタッフからもさりげなく好みを聞いたり、出来るだけご本人様の思いに沿った生活ができる様に支援しています。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のその日の体調や気分等十分に観察したうえで、ご本人様の希望を最優先し支援しています。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度訪問美容サービスが来られ希望に沿って受けていただいています。また、更衣の際は、ご本人様の着たい服をご用意しています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの食事の好みを把握し、食べられない物は別の食材で対応している。食事中は入居者様がテーブルを囲んで会話をしながら楽しく食事ができる様雰囲気づくりに努めています。	利用者の能力に応じたお手伝いをしていただいている。メニューについては、主菜は外部事業者によるものだが、汁物や副菜は手作りをしている。月に1~2回は利用者の希望に沿った手作りの食事を提供している。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材会社や主治医の指示のもと一人ひとりの状況に合った食事を提供し、毎日の摂取量を記載し入居者様に応じた水分量、栄養バランスを確保しています。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後入居者様に応じた口腔ケアをしています。また、場合によっては職員がサポートしています。また、週1回歯科往診により口腔内の状態確認及び口腔ケアを行って頂いています。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとり排泄パターンを記録し、見守りや声掛け及び介助を行っています。	一人ひとりの排泄パターンを把握している。表情やしぐさのサインで読み取れるため、そっとトイレに誘導している。また、骨折でオムツになった方が、リハビリを始めたタイミングで、リハビリパンツに替え、おむつ外しができたことがあり、自立に向けた支援を行っている。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況を把握し、食物繊維の多く入った物などおやつで提供しています。また、腸の動きを促進できるように下腹部のマッサージなども行っています。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週に4回入浴日を設け規定日以外でも希望時に入浴ができる環境を整えています。入浴は、入居者様の状態に応じて対応しています。	北ユニット・南ユニットで週に2回計4回の入浴が行われている。入浴を拒否される方には、時間を置いて声をかけたり、職員を代えて声をかけるなどの工夫をしているが、その日に入らないときは日を改めて入浴していただいている。また、入浴をしたいとの希望があれば、相互のユニットが協力して入浴を支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の習慣や体調をもとに安心して休める環境作りに努めています。夜間眠れない時は暖かい飲み物を提供したり、会話をを行う等して安心して眠れるように支援しています。また、日中の活動を促し生活リズムが整うように支援しています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月に2回薬剤師が訪問し、医師から処方された薬の管理、説明を行って頂いています。また、薬の説明書を一人ひとり管理しており、職員が常時確認できるようにしています。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の得意な能力が発揮できるよう、園芸や手芸、料理、レクリエーション等を職員と一緒に取組みアイデアを活かせるようサポートしています。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、入居者様の要望に合わせて園外に出かけています。また、季節に合った外出支援を行っており、入居者様に季節感を肌で感じていただいています。	時候の良い時は、毎日のように散歩に出かけている。また、通院の帰りに買い物に行ったり、以前住んでいた町を遠回りをして通るなど希望があれば個別に対応している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる入居者様についてはご自分で管理していただいています。管理が難しい入居者様は、ご家族・又は施設で管理をさせて頂き、いつでも使える様対応しています。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様のご希望時にはいつでも利用できるようにしています。手紙や切手の用意、代筆、ポストへの投函等の支援も行っております。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分であるホールには対面キッチンが設置されており、入居者様が気軽に家事に参加できるようになっています。また、ホールからテラスには車いすでも自由に入り出ることができるようになっており、快適に生活が送れるような空間となっています。	共用スペースのサッシからは、日が差し込み、ウッドデッキへの出入りが可能となっている。気候の良い時期は、日光浴を行っている。また、利用者と一緒に作られた季節の飾り物が飾られ、明るく季節感のある空間となっていた。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内の畳の間や、テレビの前、日当たりの良い場所にソファや椅子を設置し、いつでもゆったりとくつろがれたり、仲の良い入居者様同士が会話できる空間を設けています。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際はご本人様の慣れ親しんだ物を持ち込んでいただき、馴染みの者を置くことで、入居時の不安を取り除いています。	居室には、馴染ある家具や利用者の思い出のあるものが持ち込まれ、居心地良く過ごすことができるように工夫されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様一人一人の現状を把握し、出来ることを活かした支援を行うようにしています。また、トイレを突き当たりを設置し、ドアの色を変える等、分かりやすい作りになっています。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
				③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている		
				② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が		
				② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が		
				② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が		
				② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様と地域の方々、職員が支えあい町づくりに貢献する。という理念をかかげており、日々のお世話の中で理念や職員の誓いを念頭に置きサービス提供を行うように努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し回覧板を毎月回していただいています。また、地域のボランティアの方に来苑していただき、本の読み聞かせなど毎月行って頂いています。町の文化祭では、お年寄り職員共同で作った作品も展示し地域との交流につなげています。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や近隣の小学校との交流の際に、認知症の方の支援方法や関わり方等伝えていきます。また、施設の力を地域で活かせるよう、地域の方が開催するシンポジウム等に参加しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、地域の民生委員や、近隣住民代表の方、役場の方、入居者様、ご家族様に参加していただき日頃の様子や困難事例など相談しています。そこで、委員の皆様より率直な意見や提案を頂きサービスの向上に生かしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から様々な件に関し相談し、運営推進会議にも役場福祉課の方に参加していただき、ご協力いただいております。また、施設のパンフレットなども定期的に置かせていただいております。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会の設置及び身体拘束訂正化の為に指針の整備を行い、三ヶ月に一回会議を開催し、マニュアルの見直しや、困難事例の対策、研修の企画実施、日常ケアの見直し等行っています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待について外部の勉強会にも参加し、参加した職員が施設へ持ち帰り施設内勉強会を開いている。また、入居者様のご様子や入浴時等に身体状況等に異変がないか日常的に観察を行っています。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居時に、ご家族様と入居者様に権利擁護に関する制度の活用についても説明し、パンフレットも準備しています。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、入居後予想される事故やトラブル等について事前に説明しています。また、契約前にご本人様やご家族様に施設見学に来ていただき、不安や疑問があればその場で説明をさせて頂いています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様訪問時に苦情や意見が気兼ねなく言える雰囲気づくりを心掛けています。また、定期的にご家族アンケートも送付し、意見箱「お宝ポスト」を玄関に設置しています。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員が発言できる雰囲気を作っており、会議でも積極的に意見や提案をしてもらい運営に反映しています。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来る限り職員の要望は聞くようにしており、状況に応じて話し合いの場も設けています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集は男女年齢問わず募集をしており、10代から70代までの幅広い年齢層の方が明るく、元気に勤務しています。向上心を持って働ける様、相談・助言を行い、資格取得についても積極的に支援しています。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	勉強会による人権教育や啓発活動に取り組んでいます。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社半年以内に新人研修を行っている。また、施設内で2か月ごとに勉強会を行い介護技術等指導を行っている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の施設等に施設情報等提供し意見交換等行っています。また、他事業所が開催、若しくは集まる交流の場などにも参加をしています。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から施設見学をしていただいたり、こちらから自宅等へ訪問し、ご本人様・ご家族様面談にて不安や要望などお聞きし、徐々に施設に馴染んでいただけるような関係づくりに努めています。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記取り組みと同様。また、話しやすい環境を作り信頼関係が築ける様努力しています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前より面談や施設見学及び情報提供書等にて、ご本人様・ご家族様の精神面・身体面・環境状況を把握し、今どんな支援が必要かを具体的に話し合い見極めています。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様ご自身で出来ることは、なるべくご自分でしていただき、得意なことは入居者様がスタッフに教える等ともに支えあう関係作りに努めています。また、その人らしさや健康な能力が活用できるよう支援しています。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	苑の行事に御家族様を招待し、楽しみや思い出を分かち合い、ともに支える関係作りをしています。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご友人の面会時には、お茶をお出しする以外は入室を控え、ゆっくりと過ごしていただける様心配りをしています。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の時間や、レクリエーションにて一緒に過ごす時間の調整役として、また、入居者様同士の会話の橋渡しなど関係がうまくいくように支援しています。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もご入居者様やご家族様とのかかわりを大切にして、手紙などのやり取りなども行っています。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様とのコミュニケーションを密にとり、希望や意見を把握するように努めている。意思表示が困難な場合は、日々のご様子や、アセスメント、ご家族様からの情報から把握できるように努めています。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様及びご家族様や今まで担当されていたケアマネージャーより入居前より聞き取り調査を行い把握するように努めています。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活リズムや過ごし方の違いを理解し、個人の出来る事やしたい事を探り取り入れ、出来ることを増やしていける様サポートしています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族様からは日々の関わりの中で思いや意見を積極的にお聞きしている。定期的にカンファレンスを行い職員で意見交換を行っている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	訴えや行動、スタッフが掛けた言葉、行為、入居者様の反応、感じたことを細かく記載し、介護計画に生かしています。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様からの宿泊希望時には寝具や食事を提供している。また、外出時の同行、入院時の面会等を行っている。		



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議や小学校との交流会、地域の場ランティアを活用し、入居者様の健康な力が発揮でき楽しんで生活ができる様サポートしています。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様ご希望の場合はかかりつけ医での受診を行っています。また、希望の無い場合は、同意の上協力医療機関から往診に来て頂き24時間の連絡体制も整えています。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	アップルハート訪問看護ステーションによる24時間連絡対応の体制を整えています。また、週1回の訪問にて健康管理を行って頂いています。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は面会に行くようにしており、馴染みの顔を見せ入居者様に不安を与えないように努めています。また、かかりつけ医、入院先関係者、施設側職員が常に情報交換を行っています。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を定め、契約時に終末期における医療処置の対応等ご本人様及びご家族様に確認しています。また入居後も、ご家族、職員、かかりつけ医、その他関係者との情報共有を密に行い、今後の変化に備え、すぐに対応できるようにしています。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救命救急についての研修、実技の指導を受けています。また、緊急時即座に対応できるよう、緊急対応マニュアル、連絡網を作成しています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時の避難経路や場所の見取り図を掲示し、連絡網も作成しています。また、定期的に避難訓練も実施しています。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話し方や入浴・排泄等対応についての勉強会を行っており、日々の支援に生かしています。また、記録などの個人情報に関する秘密保持も徹底しています。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様との関係作りに努め、いつでも思いや希望を表現できる環境を整えています。また、スタッフからもさりげなく好みを聞いたり、出来るだけご本人様の思いに沿った生活ができる様に支援しています。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のその日の体調や気分等十分に観察したうえで、ご本人様の希望を最優先し支援しています。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度訪問美容サービスが来られ希望に沿って受けていただいています。また、更衣の際は、ご本人様の着たい服をご用意しています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの食事の好みを把握し、食べられない物は別の食材で対応している。食事中は入居者様がテーブルを囲んで会話をしながら楽しく食事ができる様雰囲気づくりに努めています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材会社や主治医の指示のもと一人ひとりの状況に合った食事を提供し、毎日の摂取量を記載し入居者様に応じた水分量、栄養バランスを確保しています。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後入居者様に応じた口腔ケアをしています。また、場合によっては職員がサポートしています。また、週1回歯科往診により口腔内の状態確認及び口腔ケアを行って頂いています。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとり排泄パターンを記録し、見守りや声掛け及び介助を行っています。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況を把握し、食物繊維の多く入った物などおやつで提供しています。また、腸の動きを促進できるように下腹部のマッサージなども行っています。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週に4回入浴日を設け規定日以外でも希望時に入浴ができる環境を整えています。入浴は、入居者様の状態に応じて対応しています。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の習慣や体調をもとに安心して休める環境作りに努めています。夜間眠れない時は暖かい飲み物を提供したり、会話をを行う等して安心して眠れるように支援しています。また、日中の活動を促し生活リズムが整うように支援しています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月に2回薬剤師が訪問し、医師から処方された薬の管理、説明を行って頂いています。また、薬の説明書を一人ひとり管理しており、職員が常時確認できるようにしています。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の得意な能力が発揮できるよう、園芸や手芸、料理、レクリエーション等を職員と一緒に取組みアイデアを活かせるようサポートしています。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、入居者様の要望に合わせて園外に出かけています。また、季節に合った外出支援を行っており、入居者様に季節感を肌で感じていただいています。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる入居者様についてはご自分で管理していただいています。管理が難しい入居者様は、ご家族・又は施設で管理をさせて頂き、いつでも使える様対応しています。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様のご希望時にはいつでも利用できるようにしています。手紙や切手の用意、代筆、ポストへの投函等の支援も行っております。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分であるホールには対面キッチンが設置されており、入居者様が気軽に家事に参加できるようになっています。また、ホールからテラスには車いすでも自由に入り出ることができるようになっており、快適に生活が送れるような空間となっています。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内の畳の間や、テレビの前、日当たりの良い場所にソファや椅子を設置し、いつでもゆったりとくつろがれたり、仲の良い入居者様同士が会話できる空間を設けています。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際はご本人様の慣れ親しんだ物を持ち込んでいただき、馴染みの者を置くことで、入居時の不安を取り除いています。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様一人一人の現状を把握し、出来ることを活かした支援を行うようにしています。また、トイレを突き当たりに設置し、ドアの色を変える等、分かりやすい作りになっています。		



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2/3くらいの		
				③利用者の1/3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
				③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている		
				② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が		
				② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が		
				② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が		
				② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		